

頂近くで終っているが中には殆んど葉頂に達するものがある。

又 *P. eurystomum* の中肋は Fig. 6 に見る如く葉頂に達するもの及び少しく突出するものもあるが中には葉頂に達しないものも少くない。以上の諸点からして葉形や鋸齒、中肋の様子ではこの場合区別出来ない。造胞体を見ると *P. kiusiense* の co-type 標本のものは非常に若くて Fig. 4 に見る如く萌胞が若くて長いようにも見えるが、標本が古いのと、若いものは水に浸してもなかなか旧形にもどらないので長く見える。Fig. 7 に萌胞を比較したが特別な差異は見られない。又 *P. kiusiense* の原記載には *Theca erecta, breve pyriformis* とあるから特別の差は見られない。Seta についても “Seta 7-8 mm alta, lutea, tenuis in sicco flexuosa” とあるが co-type の若い seta は黄色をしているが標本中に混じている古い萌胞のこわれた、seta だけ残つたものを見れば赤褐色をしている。この仲間の seta は若いときは黄色——黄褐色をしていて完熟すると美しい赤褐色を帯びて来る。尙 *P. kiusiense* の原標本の採集されたのが3月8日であるが *P. eurystomum* が熟するのは南九州に於ては4月初旬が普通であるので *P. kiusiense* は *P. eurystomum* の若いものであると考える。

この機会に中学時代の恩師土井美夫氏が同氏採集、櫻井久一氏発表の co-type 標本約70点と、日本新産として発表された材料の殆んどすべてを惠與され南日本蘚類フロラの究明に便宜を與えられたことを深く感謝致します。

〇ヲトコシダ伊豆に産す (志村義雄) Yoshio SHIMURA, *Rumohra assamica* Ching. found in Prov. Izu.

ヲトコシダは従来九州、四国、中国、近畿等の地方の所々に産しておりその東限は三重縣の大杉谷とされていた、處が1952年11月2日小生、杉野孝雄君(当学部学生)及大村敏朗氏等と伊豆西海岸の仁科村大沢里より奥の白川方面に採集に行き同行の杉野君がヲトコシダらしきものを1株2本取り小生も亦同時に株を見つけた。計2株を持ち帰り杉本順一氏(植物研究家)及倉田悟氏(東大農学部)の意見を聞き併せて文献等によりヲトコシダであることを確認した。生育していた場所は白川の溪流に沿つた一寸した岩壁であつた。これに依りヲトコシダの分布は伊豆半島にまで拡がりこの地が最東限になつたわけである。  
(静岡大学教育学部)